



圃場に水が溜まりっぱなしになっていませんか？ 間断かん水で根の活力を維持しましょう！ 斑点米カメムシ類・いもち病の発生に要注意！防除を徹底！

◎ 生育概況と技術対策

「雪若丸」の7月19日現在の生育は、平年値と比べ、草丈は長く、茎数、葉数はやや多く、葉色はやや濃くなっています。

出穂期は平年並み～1日早いと予想されています。

平坦部「雪若丸」の生育（7月19日）

項目	調査値	平年値	平年比・差
草丈	68.5 cm	63.4 cm	108 長い
茎数	681 本/m ²	655 本/m ²	104 やや多い
葉数	12.2 枚	11.8 枚	0.4 やや多い
葉色 (SPAD)	43.4	41.6	1.8 やや濃い

※各農業技術普及課の調査結果を平均した値

「雪若丸」予想出穂期（7月19日現在、農業総合研究センター調べ）

場所	予想出穂期	平年出穂期	平年差
山形市みのりが丘	8月2日	8月2日	0日
鶴岡市藤島	7月31日	8月1日	-1日

※過去7か年（H29～R5）の平均値

（1）間断かん水で根の活力維持！出穂直前から穂揃期までは湛水管理！

出穂までの水管理は間断かん水を基本とします。土壌を酸化的に保ち、根に水分と酸素を供給しながら、根の活力維持に努めましょう。

出穂・開花期は、水を最も必要とする「花水」の時期です。出穂直前から穂揃期までは2～5cmの水深を保つように管理します。

（2）斑点米カメムシ類及びいもち病の発生に要注意！対策を万全に！

斑点米カメムシ類の発生量は平年に比べて多く、7月2日付けで注意報が発表されています。防除は穂揃期とその7～10日後の2回防除を基本とし、地域で一斉に防除すると効果的です。

いもち病の感染に好適な気象条件となる日が多くなっています。穂ばらみ期と穂揃期の2回防除を基本に行いましょう。

農作業事故と熱中症に十分注意してください！

休憩をこまめにとり、水分補給を行いながら、無理のない作業を！